

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会  
大阪市天王寺区東高津町12-10  
大阪市立社会福祉センターB1F  
発行責任者 小泉 いと子  
TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623  
http://city-osaka-ikuseikai.or.jp  
定価 10円



大阪市手をつなぐ育成会 法人理念

障がいのある人が 安心して 心豊かに すごせるように

近畿手をつなぐ育成会連絡協議会  
令和元年度リーダー養成研修会が開催されました

副理事長 中島 由紀子

6月3日に近畿手をつなぐ育成会連絡協議会主催の「リーダー養成研修会」が尼崎商工会議所で開催されました。今年は兵庫県育成会の担当で、当会からは15名が参加しました。

重度の自閉症の息子を教育するために、米国在住のインド出身教育者ソマ氏が新たに開発した教育法「RPM」(ラピッド・プロンプティング・メソッド)の理念と方法について理解を深める研修で、米国でRPMの実践指導をしている鈴木麻子氏が講師に招かれました。

はじめに自閉症の特性について話され、自閉症児が「できない子」と見なされてしまう理由として、視覚・聴覚等の感覚や体の機能が定型発達の人と違うかたちで働くことを挙げられました。体の内外からの刺激が適切に脳に伝わらず、うまく答えられないせいで、物事・言葉を理解できないと判断されてしまい、年齢相応の学習の機会が与えられていません。RPMは一人一人の特性を理解し、必要とする援助を駆使しながら学科教育を行い、彼らの持てる能力を高めていくものです。

鈴木氏は「学科の勉強をすると聞くと『一人でもできない子に高度な学科教育など必要ない』『勉強はしなくて良いから、コミュニケーションだけできるようになってほしい』と言われますが、私達も知識を得て語彙を増やすことで成長してきたのですから、学習することは不可欠なことであり、『今朝なに食べた?』等のランダムな質問に答えるのは、『地球は何の周りを回っている?』という、答えが1つしかない質問に答えるより難しいのです。」と学科教育の大切さを説明されました。

RPMで教えるレッスンの進め方も実際に見せてもらいました。アルファベットの文字盤を利用して指差しをさせることで、適切な応答をする能力を発達させます。レッスンの内容は科学・歴史等の年齢にふさわしい、なるべく興味深い内容を探し、答えを先に教えてから二者択一問題で質問して失敗しないようにします。敢えて目を合わさないようにしたり、その場で破った紙に質問を書くことで注意を引き付けたり、RPMの考え方に則った工夫が見られました。

最後に尼崎市育成会の十河氏が2年前に指導を受けたRPMの実践報告をされました。「少しでも息子が話せるように」と希望したところ、鈴木氏から「まず教科学習をして、結果としてコミュニケーションが伸びるのです。」と教えられ、知識を得る機会を与えてやることは大事なことと実感されているそうです。RPMはまだ直接指導を受けられる所が日本に無いのが残念ですが、自閉症以外の人にも有効で、一番大切なポイントは「知性、学ぶ力を信じること」です。学習を通して自己表出が可能になることを教わった大変有意義な研修会でした。 (研修会風景)



コミュニティサロン『サロンつばさ』に  
来てみませんか?

指定相談支援事業所 福島育成園  
石井 一枝